(1)　生活における経済の計画

ア　家計の構造や生活における経済と社会との関わり，家計管理について理解すること。

イ　生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について，ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察すること。

(2) 消費行動と意思決定

ア　消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題，消費行動における意思決定や契約の重要性，消費者保護の仕組みについて理解するとともに，生活情報を適切に収集・整理できること。

イ　自立した消費者として，生活情報を活用し，適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し，工夫すること。

(3) 持続可能なライフスタイルと環境

ア　生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに，持続可能な社会へ参画することの意義について理解すること。

イ　持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう，安全で安心な生活と消費について考察し，ライフスタイルを工夫すること。

D　ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

生活上の課題を設定し，解決に向けて生活を科学的に探究したり，創造したりすることができるよう次の事項を指導する。

ア　ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解すること。

イ　自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し，解決方法を考え，計画を立てて実践すること。

3　内容の取扱い

(1) 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　内容のAからCまでについては，生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な学習活動を充実するとともに，生活の中から問題を見いだしその課題を解決する過程を重視すること。また，現在を起点に将来を見通したり，自己や家族を起点に地域や社会へ視野を広げたりして，生活を時間的・空間的な視点から捉えることができるよう指導を工夫すること。

イ　内容のA(1)については，人の一生を生涯発達の視点で捉え，各ライフステージの特徴などと関連を図ることができるよう，この科目の学習の導入として扱うこと。また，AからCまでの内容と関連付けるとともにこの科目のまとめとしても扱うこと。

ウ　内容のA(3)及び(4)については，学校や地域の実態等に応じて，学校家庭クラブ活動などとの関連を図り，乳幼児や高齢者との触れ合いや交流などの実践的な活動を取り入れるよう努めること。(5)については，自助，共助及び公助の重要性について理解できるよう指導を工夫すること。

エ　内容のBについては，実験・実習を中心とした指導を行うこと。なお，(1)については，栄養，食品，調理及び食品衛生との関連を図って扱うようにすること。また，調理実習については食物アレルギーにも配慮すること。

オ　内容のCの指導に当たっては，A及びBの内容と相互に関連を図ることができるよう工夫すること。

カ　内容のDの指導に当たっては，AからCまでの学習の発展として実践的な活動を家庭や地域などで行うこと。

(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。

ア　内容のA(2)のアについては，関係法規についても触れること。(3)から(5)までについては，生涯にわたって家族・家庭の生活を支える福祉の基本的な理念に重点を置くこと。(4)については，認知症などにも触れること。アについては，生活支援に関する基礎的な技能を身に付けることができるよう体験的に学習を行うこと。

イ　内容のB(1)のア，(2)のア及び(3)のアについては，日本と世界の衣食住に関わる文化についても触れること。その際，日本の伝統的な和食，和服及び和室などを取り上げ，生活文化の継承・創造の重要性に気付くことができるよう留意すること。

ウ　内容のC(1)のイについては，将来にわたるリスクを想定して，不測の事態に備えた対応などについても触れること。(2)のアについては，多様な契約やその義務と権利について取り上げるとともに，消費者信用及びそれらをめぐる問題などを扱うこと。(3)については，環境負荷の少ない衣食住の生活の工夫に重点を置くこと。

第2　家庭総合

1　目　標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を通して，様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。